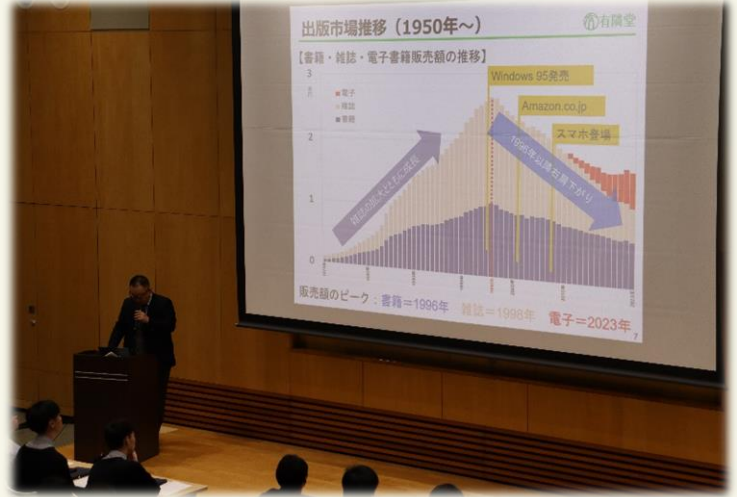


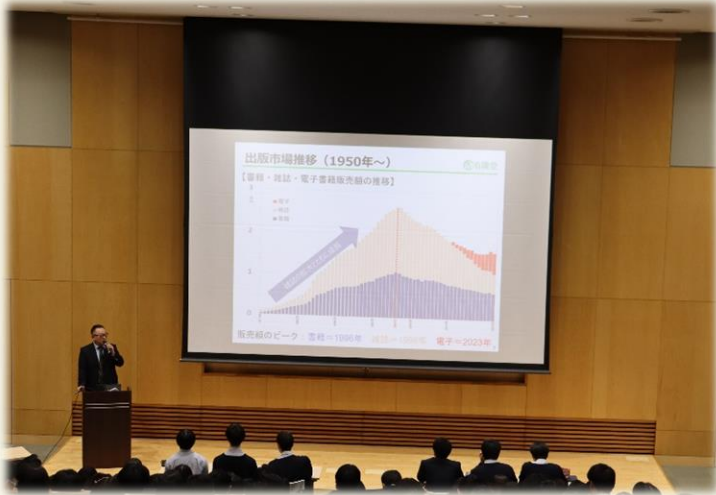
株式会社有隣堂 松信様にご講演いただきました



松信様による講演の様子



時代と共に移り変わる書籍の販売事情



有隣堂の本屋としての売り上げを聞き、生徒達は驚いていました



本屋を続ける理由や経営に対する姿勢についてお話しいただき生徒は感銘を受けていました。



有隣堂の多岐にわたる事業展開
「本屋さんだけだと思った」という生徒の声も聞こえました。



生徒達は普段聞けない貴重な話に聞き入り、真剣に取り組んでいました。

～生徒のお礼と感想～

・松信健太郎さんの講演を聞いて、会社を運営していく上で従業員を雇っている。という責任を持つ社長という役職と会社の運営について多く学ぶ事ができました。私は有隣堂と言ったら本屋さんというイメージしかなかったのですが、有隣堂で売られている文具や内接しているカフェ、他にも音楽教室やオフィスソリューションなどの事業展開がされていて、リスク分散が考えられていることから、事業を運営していくには様々な工夫が必要不可欠だと知りました。さらに、国際競争という大きな問題とその課題が読書から培える想像力で解決に向かうことを、作家さんや多様なデータから松信さんが信念としていることがわかり、若者の読書の重要性がより深く理解できました。また、ビジネスとして、成長するには新しい挑戦や試みが必要なことがわかりました。こういったチャレンジ精神は松信さんが体験した辛い経験や、覚悟のある取り組みをしなければ得られないものだったので、何をするにも、リスクをしっかりと考えなければいけないと知る事が出来ました。大人になるということは、自分自身で考え、人生を決めていくことだと聞いて難しいけど、それも自分の成長にとって、とても重要なことだと理解し、頑張ろうと思いました。

・今回の講演を受けて、本を読むという行為がいかに私達にとって重要な行為であるかを知る事ができました。私達が幸せになるためには自己実現、自己成長、自己統治が必要となり、それらをできるようにするためには多くの知識や情報を蓄えたり、他人の思想や想像に触れる事で自らの想像力を培ったりする事が必要となると学びました。本というものは著者の知識や情報、そして著者自身の思想や想像が詰まっているものです。そのため、本を読むだけでこれらすべてを自分の蓄えにできるだけでなく、文字から情景を浮かべるといった想像力まで培う事ができるのです。大人になってからではたくさん本を読む事が難しくなってしまうので、学生の間たくさん読んでいこうと思いました。

・「有隣堂といえば本屋」というイメージが強かったのが、今回の公演を受けて印象が大きく変わりました。様々な事業を展開し、困難なことに對して諦めない姿勢は未来を支える私たちにとって必要なことであると気づかされました。そして、自己の目標を実現し、成長し、統治するためには本から得ることができる多くの知識と他者の考え方に触れることなのだと知りました。

・「生き残るために自分たちより優れているものを真摯に学んで身につけるのがプライド」という松信さんの言葉が印象的でした。これは企業の取り組みでもそうですが、私たち学生に例えると部活動だと思います。上手な後輩の知識や技術を模倣することや学ぶことで結局は自分の成長にも繋がります。中学生の頃の部活で後輩という存在にプレッシャーを感じていたので、この時に松信さんの言葉に出会いたかったなあと思いました。これから社会に出てもこの言葉は自分の心の中に残しておきたいです。

・本日はありがとうございました。これから新しい環境に進んでいき、さまざまな人と出会っていく中で、多くの知識や価値観に触れていくと思います。それを経てなりたい自分を見つけるために色々なことに挑戦し、学んでいきたいと思いました。そして、私は幼い頃から本を読むこと、本屋という空間に居ることが好きでした。自分の頭で考えて想像し、自分の世界を目に見えているものだけに留めないことの大切さを読書を通じて学びました。本日のお話を聴いて、自分のビジョンを創造し、実現していくためにこれからも読書が続けていきたいと思いました。改めて、本日は貴重なお話をありがとうございました！